

ASEAN主要国の経済相 所管機関・部局と人物プロフィール

〔人物データ・ファイル〕

(*掲載した各国閣僚は日本の経済産業相のカウンターパートに当る)

《タイ》

■商業相 Minister of Commerce

ポーンティワー・ナーカーサイ Pornthiva Nakasai



タイ史上初の女性商業相。2008年12月のアピシット現政権発足時、連立与党の小政党「プームチャイタイ党(BJT)」(現与党第2党)の唯一(当時)の大臣枠で初入閣。

〔所管〕輸出振興局、外国貿易局、貿易交渉局、商業開発局、知的財産局、国内通商局、商業保険委員会事務局、公共倉庫機構、他

▼データ：【年齢】49歳(1961年6月6日生まれ)【政党】プームチャイタイ(タイ矜持)党(BJT)【学歴】ソクラーナカリン大学卒(文学士)。ラームカムヘーン大学で政治学修士号取得。タマサート大学で行政管理学修士号取得。【経歴】スチュワード。カクテル・ラウンジ経営。1999：マッサージ・パーラー「ポセイドン・エンターテインメント・コンプレックス」取締役。2006：上院議員に初当選(クーデター発生で無効)。07：[12月総選挙]下院議員に初当選(中部・チャイナート県1区)。08：[12月]アピシット政権現職(初入閣)。【既出データ】(09/01/15)

【横顔】タクシン元首相派の旧・タイ愛国党(TRT)で執行委員を務めたアナチャー(Anucha Nakasai)氏(参政権停止中)の妻で、入閣は同氏の「代理人」という色彩が強かった。しかも、スチュワードや娯楽施設経営の経験しかない1回生下院議員の(現職への)起用には当初、経済団体の幹部らから強い不安の声が挙がった。

*そうした経験不足は、産業・貿易政策立案に著名な実業家やエコノミストらを商業相顧問として活用することで補い、現在まで大臣としての実務を卒なくこなしている感がある。

*11月中旬に福岡県内の先端研究拠点や企業調査のために来日したほか、09年4月にも大阪などを訪れてタイへの投資誘致に努めた。

《マレーシア》

■国際貿易産業相 Minister for International Trade & Industry

ムスタバ・モハメド Datuk Seri Mustapa bin Mohamed



与党連合「国民戦線(BN)」の中核政党「統一マレー国民組織(UMNO)」の古参幹部。元来は財政専門家だが、マハティール政権時代の1995年以来、企業開発相、第二財務相、首相府相、高等教育相、農相などの閣僚ポストを歴任してきた。2009年4月のナジブ政権発足時に現職(国際貿易産業相)に異動。

〔所管〕多国間政策・交渉局、経済貿易関係局、ASEAN経済協力局、アジア太平洋協力局、自由貿易協定(FTA)政策・交渉局、投資政策・貿易促進局、協力・取引慣行局、他

▼データ：【年齢】65歳(1945年生まれ)【人種】マレー人【政党】統一マレー国民組織(UMNO)：最高評議員【学歴】1973：(豪)メルボルン大学卒(経済学：首席)。82：(米)ボストン大学で修士号(開発経済学)取得。97：メルボルン大学名誉商学博士。2005：(英)ノッティンガム大学名誉法学博士。【経歴】1987：財務相政務秘書官。91：財務大臣政務官。93：上院議員、副財務相。95：[4月総選挙]下院議員に初当選、[5月](マハティール政権)企業開発相。98：第二財務相兼任。99：[11月総選挙]落選、財務省顧問。2004：[3月総選挙]下院議員に返り咲き、(アブドゥラ政権)首相府相(国家経済計画担当)。06：高等教育相。08：[3月総選挙]下院議員に再選(3期目、クランタン州ジェリ選挙区)、農業・農業関連産業相。09：[4月](ナジブ政権)現職。【党職】1993：UMNO最高評議員(一現在)。2000：UMNO情宣部長(-04)。【家族】カマルザン(Datin Kamarzan Ahmad Meah)夫人との間に4子。【既出データ】(09/05/01)(08/04/01)(00/07/01)

【横顔】野党の「全マレーシア・イスラム党(PAS)」が州政府を掌握するクランタン州の下院議席を維持しながら、長年にわたって連邦政府の閣僚を務めてきた点でも異色の存在。

*誠実な人柄で知られ、UMNOの幅広い党员層からの信頼をえている。同党大会での最高評議員選挙では(総裁補選挙に出馬した2004年を除いて)1993年から上位当選を果たしてきた。

《シンガポール》

■通商産業相 Minister for Trade and Industry

リム・フンキャン Lim Hng Kiang (林勳強)



リー・シェンロン首相(58)をトップにする「第3世代」政治家に属し、同世代のテオ・チーヒエン副首相兼国防相(55)、ジョージ・ヨー外相(56)らとともにリー政権の中核を担う(因みに、リー・クアンユー顧問相〔元首相〕らの「建国世代」が「第1世代」、ゴー・チョクトン上級相〔前首相〕らが「第2世代」である)。同(リム)氏はリー首相、ヨー外相とは、英ケンブリッジ大学(学士)と米ハーバード大学(修士)の双方で学んだ点でも共通している。ゴー政権時代から国家開発相、保健相、首相府相、第二財務相などを歴任してきたが、2004年8月のリー現政権発足時から一貫して現職に留まっている。

〔所管〕通商部門(ASEAN部、新興国市場部、対外経済政策部、国際貿易クラスター部、北東アジア部、他)、産業部門(工業部、エネルギー部、資源部、他)、経済開発庁(EDB)、化学技術研究所(A*STAR)、観光庁(STB)、他

▼データ：【年齢】56歳(1954年4月9日生まれ)【人種】華人

【政党】人民行動党(PAP)【学歴】1976：(英)ケンブリッジ大学卒(工学士：最優秀)。86：(米)ハーバード大学で修士号(行政管理学)取得。【経歴】1976：国防省入省。80：同省G5課長。83：空軍航空企画部主任。米国留学。86：国防省国防政策部長。87：国家開発省事務次官補。91：国会議員に初当選、国務相(国家開発)。94：国家開発相代行兼上級国務相(外務)。95：(ゴー・チョクトン内閣)国家開発相兼第二外相。98：国家開発相兼第二財務相。99：保健相兼第二財務相。2003：[8月]首相府相兼第二財務相。04：[8月](リー・シェンロン内閣)通商産業相(一現在)。06：[5月総選挙]国会議員に再選(4期目、ウェストコースト集団選挙区)、[5月](第2次リー内閣)現職(再任)。【兼任】シンガポール通貨監督庁(MAS)副議長。シンガポール政府投資公社(GIC)理事。【趣味】水泳、ゴルフ、読書。【家族】リー・アイブーン(Lee Ai Boon)夫人(会計士)との間に2男。【既出データ】(08/04/15)(06/06/15)(03/05/15)(01/1/15)

【横顔】管理者としては実務型だとされる。選挙区住民とのコミュニケーションが苦手なのが欠点との指摘もある。PAPでは同世代の閣僚と異なり中執委には入っておらず「重鎮(顧問格)」の待遇。

*警察官の第5子として生まれる。7人兄弟。

《インドネシア》

■貿易相 Minister of Trade

マリ・パンゲストゥ(博士) Dr Mari Elka Pangestu



インドネシア政治史上で華人女性として初めて大臣に就任。ユドヨノ政権でもただ一人の華人閣僚である。インドネシアの有力な民間シンクタンクである戦略国際問題研究所(CSIS)の常任理事を務めたエコノミスト。2004年の第1次ユドヨノ政権発足時にテクノクラート閣僚として現職に起用され、09年の第2次政権で再任された。

【所管】国際貿易総局、国内貿易総局、輸出振興庁、先物取引監督庁、貿易政策分析開発庁、標準化・消費者保護局、他

▼データ：【年齢】54歳(1956年10月23日生まれ)【生地】ジャカルタ【人種】華人(華語名は馮慧蘭)【宗教】カトリック【学歴】1978：(豪キャンベラ)オーストラリア国立大学(ANU)卒。80：同大学で経済学修士号(国際貿易・経済開発)取得。86：(米)カリフォルニア大学デービス校で経済学博士号(国際貿易・財政金融経済)取得。【経歴】インドネシア大学(UI)経済学部教官。1986：戦略国際問題研究所(CSIS)エコノミスト・理事。同常任理事。2004：[10月](第1次ユドヨノ政権)貿易相。09：[10月](第2次ユドヨノ政権)現職(再任)。【歴任】太平洋経済協力会議(PECC)プログラム・コーディネーター。「国連ミレニアム・プロジェクト」貧困・開発タスクフォース(TF)共同コーディネーター。【家族】夫君はアディ・ハルソノ(Adi Harsono)氏。子供2人。【既出データ】(09/11/15)(04/11/15)

【横顔】世界銀行、国際通貨基金(IMF)、アジア開発銀行(ADB)関連の研究活動も多く、国際社会で高い評価を受けている。日本にも知己が多い。中国の上海を拠点にASEANと中国の関係促進に尽力した経歴もある。

《フィリピン》

■貿易産業相 Secretary of Trade and Industry

グレゴリー・ドミンゴ Gregory L. Domingo



米系大手銀行の要職(米国およびフィリピン)を歴任した投資銀行家で、フィリピンの著名な民間企業数社の役員(兼任を含む)も務めた。2001年からは貿易産業省(DTI)次官として公職にも就き、所管する公社や政府系企業の経営も担った。アキノ現政権での入閣は政治的背景より

もテクノクラートとしての評価によるものとみてよい。

【所管】投資委員会(BOI)、輸出振興局(BETP)、輸入業務局(BIS)、国際貿易関係局(BITR)、フィリピン貿易訓練センター(PTTC)、製品標準化局(BPS)、商業規則・消費者保護局(BTRCP)、国内通商局(BDT)、中小企業開発局(BSMED)、輸出開発評議会(EDC)、他

▼データ：【学歴】アテネオ・デマニラ大学卒(理学士：管理工学)。アジア経営大学院(AIM)で経営学修士号(MBA)取得。(米)ペンシルバニア大学ウォートン校で理学修士号(オペレーションズ・リサーチ)取得。【経歴】投資銀行家(チェース・マンハッタン銀行〔マニラ〕、ケミカルバンク〔ニューヨーク〕など)。複数企業(Belle Corporation、MERALCO、PASUDECOなど)の役員を歴任。2001：貿易産業省次官(産業・投資部門)兼投資委員会〔BOI〕事務局長。04：「SMインベストメント」社執行取締役。2010：[6月30日](アキノ政権)現職。【歴任】1996：フィリピン外国為替協会(Forex)理事(-97)。【既出データ】(10/08/15)

【横顔】同(ドミンゴ)氏の在任期間は就任から約1年間となる予定(アキノ大統領は5月の大統領選挙で自分とペアを組んで立候補したものの落選したマヌエル・ロハス副大統領候補〔当時：元貿易産業相〕を来年、同氏に代って貿易産業相に任命する計画)。

《ベトナム》

■商工相 Minister of Industry and Trade

ヴー・フイ・ホアン Vu Huy Hoang



ベトナム政府の経済政策立案・実施に一貫して関わってきたテクノクラート閣僚。

【所管】重工業局、軽工業局、エネルギー局、輸出入局、国内市場局、山岳地帯通商局、アジア太平洋市場局、多国間貿易政策局、市場管理局、科学技術局、貿易振興庁、電子商取引・情報技術庁、他

▼データ：【年齢】57歳(1953年9月20日生まれ)【生地】(北中部)ゲアン省【学歴】1976：(旧・東独)フライブルク鉱山冶金学院卒【経歴】1976：国家計画委員会石油ガス地質課長。87：対外経済省投資局。88：国家計画委員会高級顧問官。89：国家協力投資委員会プロジェクト管理局長。95：計画投資省次官。2003：(北部)ハタイ省(08年ハノイ市に吸収)人民委員会委員長。06：(北部)ランソン省共産党委員会書記、ベトナム共産党(CPV)中央委員(任期：-2011)。07：[8月]現職。

(アジア・リンクージ 勝田 悟)

<http://homepage2.nifty.com/asia-linkage/>